

お別れしてちょうど1年になりますね。

この手紙にさぞ驚いていることでしょう。

大連の秋は短いです。あっという間に冬がやってきます。その黄昏時、空が次第に陰影を帯び、周囲の全てのものが影絵のように浮かび上がってきます。私はこの瞬間が大好きです。一切の起伏が闇に包まれたその静寂の中から私の心の叫びが聞こえてくるようです。

会いたい。たまらなくあなたに会いたい。

もしあなたが中国人だったら、もし私はあの時もっと勇氣を持っていたら、私達はこんなに苦しまなくてもよかったでしょうに。お別れした時のことを思うと、どうしようもない後悔と悲しみが涙となって溢れ出ます。

母は、私があなたと日本へ行きたい気持ちでいるのに気づき、悲しみのあまり床についてしまいました。父は、日本人と結婚すれば、もう娘とは思わないとまで言いました。

伝統的な教えの中で育てられてきた一人っ子の私には、両親を悲しませ、愛する両親を捨ててまで日本へ行くことはどうしても出来ませんでした。その上、見知らぬ異国での生活を思うと、それを乗り越える勇氣も、かれた涙と共にすっかり消えていきました。

周囲のものはもう何も見えません。私の胸は苦しみに押しつぶされてしまいそうでした。私は、ただだまって別れるだけでした。

この1年、あなたからのお手紙をひそかに待ち続けました。どんなに非難されてもいい。

でも、私の心の内もわかってほしい。この気持はあまりにも身勝手でしょうか。どうしてあの時両親から奪い取ってでも連れていってくれなかったのでしょうか。あなた

のやさしさを恨めしく思います。

会いたい。たまらなく会いたい。

お別れしてからのあなたのことは、何一つわかりません。せめて、私への気持が変わらないことを祈り、私の想いを受け取ってください。

※彼は日本からの留学生です。まもなく21世紀を迎えます。人たちを隔てる時代がなくなるように願っています。